

令和 4 年度  
日野市郷土資料館の  
運営の状況に関する評価書  
(令和 3 年度事業)

令和 4 年9月  
日野市ふるさと文化財課  
(郷土資料館)



## 目次

1 はじめに	1
2 評価の目的	1
3 郷土資料館の現状	1
(1)組織と職員	
(2)主な業務	
4 評価の実施方法	1
5 評価の対象	2
6 評価の結果	2
7 写真で見る日野市郷土資料館	5
事業別 郷土資料館の運営状況の評価表	6～19

## 参考資料

I 令和3年度 日野市郷土資料館の活動状況	20～27
II 日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱	28
III 第8期日野市郷土資料館協議会委員名簿	29

## 1 はじめに

平成 15 年以降、「博物館の設置及び運営に関する基準」に基づき、郷土資料館は事業の水準の向上を図り、郷土資料館の目的を達成するため、自ら評価を行い郷土資料館協議会の御意見をいただき、その結果を公表するように努めてきております。

さらに、平成 20 年の「博物館法」の改正により、郷土資料館の運営状況に関する評価として、「博物館は、運営の状況に関する評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない」とされています。

これらを受け、郷土資料館では、平成 21 年 3 月、「日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱」を制定し、郷土資料館の運営状況に関する評価を実施しております。

## 2 評価の目的

この評価は、郷土資料館の運営状況に関する情報を、積極的に公表することにより、郷土資料館の利用者や関係者との相互の理解を深めるとともに、連携・協力を図り、郷土資料館の事業を推進することを目的とするものです。

## 3 郷土資料館の現状

### (1) 組織と職員

令和 3 年度 ふるさと文化財課

館長1(ふるさと文化財課長兼郷土資料館長)

[庶務係]課長補佐(兼庶務係長事務取扱)1、主任1、用務員1

[学芸係]係長1(学芸員)、主査1(学芸員)、主任 5(学芸員)、主事1(学芸員)、会計年度職員 6 人

### (2) 主な業務

平成 17 年 4 月 1 日、ふるさと博物館から新たに生まれた日野市郷土資料館は、次の目的を達成することを目指して活動をしています。令和 3 年 4 月から郷土資料館、新選組のふるさと歴史館、生涯学習課文化財係が組織統合し「ふるさと文化財課」となり郷土資料館の使命を引き継いでいます。

- ① 歴史、民俗、自然等の資料の収集、保管及び展示に関する業務
- ② 資料の調査研究に関する業務
- ③ 資料の普及広報活動に関する業務
- ④ 学校教育や市民による自主的学習活動への支援の連携業務

## 4 評価の実施方法

郷土資料館では「日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱」に基づき、毎年 1 回、郷土資料館協議会へ運営状況についての自己評価を提出し、協議会の評価を併せて評価書としてまとめ、教育委員会へ報告いたします。その後、市民の皆様へ公表することとしています。

さらに、その評価の結果に基づき、今後の郷土資料館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めていきます。

## 5 評価の対象

令和3年度の評価対象は、次の10事業について行うこととしました。

- No.1 学校教育との連携事業
- No.2 企画展開催事業
- No.3 特別展「～川風のおくりもの～日野に誕生した桑と蚕の研究所物語」の開催事業
- No.4 文化財緊急調査事業
- No.5 古文書等歴史資料の調査・整理事業およびマイクロフィルムデジタルデータ化事業
- No.6 百草・倉沢エコミュージアム事業
- No.7 「勝五郎生まれ変わり物語」の調査と発信事業
- No.8 七生丘陵の自然と歴史調査事業
- No.9 たきびの詩人「巽聖歌」啓発事業
- No.10 資料館講座・体験学習事業

## 6 評価の結果

<<郷土資料館協議会の評価>>

令和3年度「日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価」の項目別概要は次の通りです。

### No.1 学校教育との連携

コロナ禍による制約のもとで、出張授業やオンラインの活用など様々な手法を用い、郷土資料館の側から学校に対して積極的に働きかけるべきとの意見をいただきました。また、学校のみではなく、学童クラブなどを通して子どもたちが資料に触れる機会を設けるという提案もいただきました。

### No.2 企画展開催事業

出張展示を積極的に開催したことや、顔面把手に関する企画展が評価されました。これらの事業を単発で終わらせることなく、一回一回を積み重ねながら事業を継続し、一つの大きな成果を生み出すよう、ご意見をいただきました。

展示資料の写真撮影を認め、SNSによる発信を促したことは評価されましたが、一方でそのデメリットの検証を求めご指摘もありました。

また、来館者に向けたパンフレットの作成や、HP 上での資料情報の公開など、来館者の目線に立った質の向上や、市民へのアピールの強化を求めご意見もありました。

### No.3 特別展「～川風のおくりもの～日野に誕生した桑と蚕の研究所物語」の開催事業

第一蚕室での常設展示や体験学習会などでの活用など、今後の保存・活用に関してふるさと文化財課が保存と活用に積極的にかわるべきとのご意見をいただきました。

### No.4 文化財緊急調査事業

調査の成果を HP、ミニ展示、「広報ひの」への掲載などにより広く公開すべきとのご意見をいただきました。

#### No.5 古文書等歴史資料の調査・整理事業およびマイクロフィルムデジタルデータ化事業

古文書をはじめとした地域資料の調査・保存の取り組みについて評価をいただいています。ただし、代変わりや災害による消失、散逸の危機にさらされていることを踏まえ、古文書の散逸を防ぎ保存・解読できる組織・体制が必要とすることをご意見をいただきました。

#### No.6 百草・倉沢エコミュージアム事業

考古学体験事業やスタンプラリーは、これまでになかった文化財普及に向けた取り組みであり、地域への関心を高めた点で評価をいただきました。

#### No.7 「勝五郎生まれ変わり物語」の調査と発信事業

コロナ禍の制約のもとで YouTube による情報発信などを覆ない事業を継続したことが評価されました。

#### No.8 七生丘陵の自然と歴史調査事業

「七生丘陵散策路東コース 日野市百草の自然散策ガイド」の発行について評価をいただきましたが、新たな市民の参加を促す工夫を求めのご意見もありました。

#### No.9 たきびの詩人「異聖歌」啓発事業

今後の事業継続に向けた新たな体制作りを求めのご意見をいただきました。

#### No.10 資料館講座・体験学習事業

コロナ禍における事業運営のあり方や郷土ゆかりの人物の掘り起しなどに評価をいただきました。また、“学びたい人に手を差し伸べる”ために博物館の枠にとらわれない工夫を求めの提案もいただきました。

### <<郷土資料館の自己評価>>

郷土資料館は令和3年4月に組織統合し、ふるさと文化財課として新たなスタートを切りました。組織統合の目的は、学芸員が専門性を活かして協力することで文化財の横断的な調査・保存・普及活動を行い、柔軟な人員体制で多様な業務に対処することにあります。

令和3年度の事業目標は次の2点です。

①従来業務の継続と深化:すなわち郷土資料館などがこれまで行ってきた業務を停滞させることなく、専門職員の協力体制の下でその継続、深化をはかる。

②文化財の総合的な把握:従来の時代ごと、分野ごとではなく、地域の文化財を面としてとらえ文化財の総合的な把握を行う。

このうち、①従来業務の継続と深化については、特別展「川風のおくりもの 日野に誕生した桑と蚕の研究所物語」や企画展「縄文の顔・日野の顔」などの特別展・企画展を開催したほか、パネル展や出張展示を数多く開催し、また、学校教育との連携事業や、市民協働による講演会、学習会なども、新型コロナウイルス感染症の影響下にありながら、従来に近い頻度で実施をしました。これらの多くの事業は、専門分野の枠を超えた複数人の「チーム」で臨んだことにより、多角的な視点から事業に取り組むことができました。

②文化財の総合的な把握を目指した新たな事業としては、その具合的な取り組みとして、「百草・倉沢エコミュージアム事業」に着手し、歴史や考古など様々な角度から百草・倉沢地区の魅力を探る事業を行い、地元を中心とした多くの市民の参加、参画を促すことができました。百草地区で実施したデジタルスタンプラリーも、文化財への関心を喚起するための新しい試みでした。

このような事業に取り組む中で、いくつかの課題もご指摘いただいています。まず、市民への事業の周知や事業成果の公開が不十分であることが挙げられます。昨年度と同様の指摘をいただいております。令和4年度においてはより力を入れなければならない課題です。また、オンラインを活用した事業展開の必要性も指摘されています。このことは、未だ新型コロナウイルス感染症への対処という面だけでなく、暮らしや学びの方法が多様化している今日において、柔軟な姿勢で取り組むべき課題であると言えます。

このほか、評価の中では、廃棄・消失される日野市の宝物を守る「古文書レスキュー」の提案もいただきました。古文書に限らず、その他の歴史資料、民俗資料等を保存し、継承することは、博物館に課せられた最大の使命です。提案にあるように、日野市の宝物を自分たちで守ろうとする市民の意識を高めること、そしてその宝物をしっかりと意味付けし、保存継承する仕組みを作り上げることが、喫緊の課題であり、上述の市民への周知、オンラインの活用などの課題とあわせ、できることから始めてまいります。

郷土資料館は平成17年の設置以来、その活動は市民による調査・研究団体により支えられてきました。評価書の中では、そのような団体の構成員の高齢化についても触れられています。事業を継承し、その成果を活かすためには、新たな市民の参画を促す工夫が求められます。しかしそれだけでなく、事業の実施体制や在り方そのものを見直すことも必要だと考えられます。

評価対象となった各事業の自己評価及び郷土資料館協議会からいただいた評価及び意見は、6ページ以降の評価表のとおりです。

## 7 写真でみる日野市郷土資料館



旧高幡台小学校校舎にある郷土資料館



教室を改装した展示室

郷土資料館は、日野市を調べ、館内での展示のほか出張展示、体験学習、野外講座など様々な方法でふるさと日野を伝えています。



考古学体験で縄文土器を洗う



程久保川周辺の自然と歴史を訪ねる



化石発掘体験



「たきび詩碑」前パネル展示



どんど焼きの小屋を組み立て再現



イオンモールで「多摩平写真日記」展



戦争体験を伝える



勝五郎物語の子供講座



日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No.1 学校教育との連携事業
<p><b>事業の概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の文化財を活用し、小中学校と幼稚園、保育園などを対象とした文化財の啓発事業を展開する。</li> <li>・社会科見学や出前授業、見学会、職場体験などは、小中学校などの要望を取り入れた内容で行う。</li> <li>・授業で使う資料の相談を受けて資料提供を行い、見学場所や人材紹介などを行う。</li> <li>・当館で蓄積した画像データなどを、学校に提供して ICT 教育の教材として活用をはかる。</li> <li>・学校教育や郷土教育研究会と連携して情報発信を行う。</li> </ul>	
<p><b>事業の成果</b></p> <p>&lt; 来館 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科見学など団体見学資料館展示案内(小3:5件)</li> <li>・職場訪問(中2:1件)</li> </ul> <p>&lt; 出張授業 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合程久保川ほか(小 3:1件)、社会科日野市のうつりかわり(小3:5 件)</li> <li>・脱穀体験(小 5、小中:2件)、出張授業 総合郷土学習(中 1:1 件)</li> <li>・考古学体験(小中:1件)</li> </ul>	
<p><b>協議会の意見</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校は、小学校ほど郷土資料館の活用機会がない。総合的な学習の時間では、足元である日野を見ることでの活用があるが、昨年度はコロナにより郷土資料館だけでなく様々なことで制約があった。</li> <li>・令和 4 年度は、もとの状態に戻るのではとの意識で 1 学期が始まったが、2 学期に向けては厳しい状況にある。出かけるのが難しい場合は、資料館から学校に情報を持ってきたり、オンラインも含めて実施できるかと思う。学年に応じた時期を逃さずに、学習を停滞させない形で実施を進めたい。教材の提示が今後ある場合には相談をお願いしたい。</li> <li>・小学校では、社会科や総合的な学習の時間において、地域の自然・文化建築物いろいろな施設、文化遺産などの学習の中で資料提供やお話しをいただくことで、資料館との関わりが多い。実物を見る触る体験することが子供に印象に残り学習効果も高い、感染症対策のため、学校からのキャンセルがあったとのことだが、各学校により最終の校長判断が異なる。できれば実物を持ち来て、来館したり、学校に来てもらって話を聞きたい。ほかの団体で施設ではオンラインでつなぐことを始めている。いくつかの選択肢がある状況の中で関わりを持ちたい。</li> <li>・郷土資料館近くの小学校が社会科見学に来ていないようだが、普段子どもが行けない場所を選んでいるのだろうか。</li> <li>・出張授業の暮らしの移り変わりが1月中心で実施されている。東村山市ふるさと歴史館では冬に昔の暮らしの展示を行っている。3 年生が学習している。</li> <li>・教科書が同じだと年間計画が同じとなり、区市町村によっては、計画にあわせた展示を博物館で実施して来館を促したり、学校に出張したりするといったように学習に配慮することもある。</li> <li>・小学校の学習で来館すれば、資料館を知ってもらえて、郷土資料館が身近になるし、学校教育にもプラスになる。</li> <li>・小学校 3 年生向けの昔の暮らしを紹介する展示については、実施の方向で検討いただけると学校としてはとてもありがたいと思う。</li> </ul>	

## No.1 学校教育との連携事業

### 協議会の意見

- ・コロナ禍で、子供たちは行くところがなく児童館はすごい状況である。児童館で縄文土器の破片を見せている。子供たちはクラス単位の来館や出張授業を楽しみにしている。学校で楽しかった面白かったということを聞かせてくれる。コロナ禍で実体験がない期間が長く、今後の見通しもわからない。なんとかして実物体験を考えていかないと、子どもと郷土との関係が薄くなってしまわないか。感染対策に留意して、こどもたちを受け入れる段階に入っていると思う。
- ・学校の先生と郷土資料館の学芸員が十分打合せをして、狙いを共有して役割分担に気を付けてほしい。
- ・郷土資料館活用メニュー作りを具体化し実現する。
- ・コロナ禍のオンラインでの事業が増えていくと思われるが、資料館側も対応できるように器材等の整備が必要ではないか。
- ・児童が実物に触れること、体験すること、直接見聞きすることが貴重な体験となり、学習内容の理解につながる。郷土資料館の見学、資料館職員の方々が来校する出張授業はこれからもお願いしたい。感染症の状況を鑑みながらの連携事業となるため、資料館への来館、職員の方々の来校がかなわない場合の代案として、オンラインでの見学や授業を実施するとなお良いと感じる。
- ・郷土資料館と同じ建物に夢が丘小の学童クラブが入っているが、この学童との連携はあるのか？学童や児童館は小学校よりもカリキュラムが過密ではなく、連携は行いやすい。せっかく同じ場所にあるので、日常的に児童が資料館と関われる機会を作れたら面白いと思う。例えば、学童の展示コーナーを設けて子供たちに展示を考えてレイアウトしてもらったり、館内の案内板を作ってもらったりなど、ただ見学するだけでなく、自分たちも資料館の仕事に関わることで、子供たちの郷土への興味関心をより強めることが出来ると思う。
- ・学校教育現場は多忙であり、要望に沿えきれないことが生じるが、資料館側の制約がある中での対応となる。日野は学校対応をよく取り組んでいる。

### 課題と改善策

- ・コロナ禍では、積極的に学校に対して来館の働きかけを行わなかった。職場体験や団体見学の打診があったものの、4校が学校からのキャンセルとなった。校外学習の機会が少なくなったものの、受入れ先も減っており、郷土資料館が求められている実感があった。
- ・コロナ禍であっても、実物を用いた体験の大切さを重視し、可能な方法を模索した。割りばしでの脱穀体験、少人数を対象とした土器を洗い体験といった事例では、一人一人に道具を渡すことで、体験が可能となった。
- ・郷土教育推進研究委員会を通してなど、郷土資料館からの学校への情報の発信や学校からの情報を受け取り、連携を強化する。
- ・短時間でも小学校の教員が取り入れたいと思う郷土資料館活用メニューを作る。
- ・見学や出張授業などの際には、学校との連携を密にして、共通理解したうえで効果的にすすめる。また感染症対策も行う必要がある。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No.2 企画展開催事業
<p><b>事業の概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土資料館が実施する展示は、歴史館で実施する特別展示、資料館内での常設展・企画展・パネル展館外で実施する出張展示である。特別展以外の展示についての事業をこの項目に記載する。</li> <li>・郷土資料館は旧小学校舎を活用しており、3教室分で資料を収蔵しながら展示を実施している。令和3年度は2教室分で展示を実施し、民具の収蔵整理のため1教室分は非公開とし、昔の道具は廊下にて展示して紹介している。</li> <li>・テーマを設定して様々な、日野の歴史・文化・自然を伝えている。また、廊下壁面でのパネル展示や、館外でのパネル展示を実施し、より多くの方にふるさと日野を伝える展示を実施している。</li> </ul>	
<p><b>事業の成果</b></p> <p>1 企画展(2回/年) 会場:郷土資料館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「訪ねてみよう日野の自然」4月3日～9月5日 344人</li> <li>「縄文の顔・日野の顔」9月11日～3月27日 1,554人</li> <li>※4.27～5.31 は新型コロナウイルス 感染症拡大防止(緊急事態宣言)のため臨時休館した。</li> <li>「縄文の顔・日野の顔」魅力的なテーマ展の開催が市民の興味を引き付ける結果となった。また、考古学スタンプラリーに参加し、他館でのポスターPR効果もあり来館者が多かった。</li> </ul> <p>2 パネル展(4回/年) 会場:郷土資料館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「程久保の地域の歴史と自然」6月1日～7月14日</li> <li>「明日に伝える戦争体験」7月15日～9月10日</li> <li>「中世寺院の瓦は何色だったか～真慈悲寺瓦復元実験から～」9月12日～12月7日</li> <li>「異聖歌と童謡「たきび」誕生 80年」12月8日～4月21日</li> <li>※12月18日～28日は展示を休止して壁面工事を行い、展示面積がおおよそ1.5倍となった</li> </ul> <p>3 出張展示 タイトル/開催期間/会場/人数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>写真展「多摩平写真日記」/8月17日～27日/イオンモール多摩平の森2階</li> <li>異聖歌パネル展/イオンモール多摩平の森2階/11月2日～30日/500人</li> <li>異聖歌パネル展示(紫波第三中学校 米販売会)/旭が丘中央公園/12月18日/100人</li> <li>秋の展示 介護老人保健施設カトレア/11月6日～11月19日</li> <li>日野市春の平和展「日野びとの戦争体験と平和へのメッセージ」</li> <li>多摩平の森 ふれあい館/3月12日～3月15日/135人</li> <li>パネル展「七生丘陵散策コース 池」多摩平の森 ふれあい館/3月24日～4月21日/92人</li> <li>※令和3年度は、イオンモールの空店舗での展示の機会があり、出張展示の機会が増えた</li> </ul>	
<p><b>協議会の意見</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で来館が制限される中でも、出張展示を意欲的に行っている。出張展示は、展示先の施設にとっても来館者の満足度を高めたり、空きスペースの有効活用となったり、お互いにとって利益のあるものなので、今後も積極的に展示先の検討や情報収集を行ってほしい。</li> <li>・市民の目につきやすく親しみを持ってもらうためには、来場しやすい場所での展示会や学校への出張展示がよいのではないか。</li> <li>・狭いスペースを有効に使い、魅力的な展示ができた。企画展では、展示解説のパンフレットを作成し、見学者や学校、関係施設に配布する。</li> <li>・せっかくなので、特別展や企画展はすべてA3判 1枚くらいの、できればカラーパンフレットがあるとよいのではないか。メモするのが大変だし、写真撮影できないものもある。</li> <li>・注目した出張展示の写真展「多摩平写真日記」は、資料調査した成果を反映したものであろう。今や歴史になりつつある団地風景、高度成長期の日野を解明する貴重な資料なので、引き続き調査・研究を深めて展示などに活かしてほしい。</li> <li>出張展示は非常に限られた環境の中で行われる。継続して深めていくと、そのうち企画展になったりする。一回一回の展示が分断して終わるのではなく、連動した事業計画としてつなげていくと、日頃の苦労がいろいろな形で成果になるのではないか。</li> <li>・来館者アンケート調査は、公開してほしい。</li> <li>・平和展の証言者が激減する中、記録していく必要があるではなく「記録する」とする。</li> </ul>	

## No.2 企画展開催事業

### 協議会の意見

- ・自然分野がない郷土資料館もあり、自然の展示があることは評価できる。
- ・新選組のふるさと歴史館と同じ組織になった。長い目で見て、新選組を主題としたふるさと歴史館の活動は、日野市のPRとなり評価できる。
- ・展示された遺跡等や史跡は大きな文化財遺産、現地に標識や説明版があるとよい。
- ・「縄文の顔・日野の顔」展は、両面の顔面把手の人気もあるが、ポスターが目を引きいた。同時開催の考古学の実技シリーズや百草図書館が連携する等、盛り上がっていたと思う。
- ・展示担当者の説明対応がありがたかった。
- ・安孫子昭二先生の講演も大変興味深かった。
- ・縄文の顔展のポスターの評判がよく、ポスターだけでなく、見るとすごくおもしろかった。せっかくの企画展である。市内外にもっと宣伝して欲しい。
- ・企画展「縄文の顔・日野の顔」の展示資料はすばらしいものであった。しかし表採資料にしては風の劣化が少なく遺物の包含相が浅いため、容易に出土したように見受けられた。採集地点が特定できるのであれば、今後の遺跡発掘の保存方策が望まれる。また、学術調査を実施することにより、その他の供伴遺物や遺跡の確認により遺物の価値の増大が見込まれる。
- ・掘ればでてくると思われてしまったは、遺跡破壊につながってしまう。
- ・令和3年度から SNS への写真投稿が自由になったことはよかったと思う。博物館は掲載をむしろ勧めているのが最近の傾向である。3点ほど写真撮影不可という資料があり、理由の説明はあったが見学者にとっては残念だった。山梨県の博物館は比較的開放されているので日野市も市民と情報共有できるよう、同様の対応があるとよいと思う。多くの場合悪用目的ではなく、楽しみで撮影している。
- ・縄文時代の SNS 投稿で知られるインフルエンサーと言われる者が、実際に郷土資料館を訪ね発信していたことは若い人への広報にもなった。
- ・各種事業を周知する方法として、現在はウェブや SNS を中心とした通信網によって情報を得ることが若者を中心に増えている。事業等の周知を図る方法の1つとして、郷土資料館のウェブサイトをさらに充実させることを考慮に入れられるとよいのではないかと感じた。
- ・自分の機関が、ツイッター などSNSで発信するのは理解できるが、自由勝手にネット上に公開されるのは抵抗がある。
- ・撮影された写真がどのようなことで悪用されるのか、勉強する必要がある。
- ・「縄文の顔・日野の顔」では、興味を引くポスターや来館者の SNS への投稿、スタンプラリーへの参加もあり、多くの人が訪れた。これは、たとえ立地の悪い資料館でも、展示に魅力を感じれば、多くの人が訪れてくれるポテンシャルがあるということではないか。せっかく毎年良い展示を行っているので、広報力を高めていってほしい。そういった中では、現在の企画展についての情報が HP で乏しいのは残念。最低限、展示されているものの写真や展示の見どころなどを載せアピールをしてほしい。

### 課題と改善策

- ・令和3年度はコロナにより休館が生じたが、展示の動画配信は新規には実施しなかった。
- ・外出が控えめであることから、出張展示は引き続き積極的に実施していきたい。
- ・平和展は、市の関係部署で毎年連携して行っており、平和を伝える行事として重要である。証言者が亡くなっていく状況で、残された資料をもとに、この時代の人々の有り様を記録する。
- ・SNS での発信など情報の発信方法が有効だったことがわかった。メリット・デメリットを考えた上で、活用していく。
- ・狭小な施設での展示方法を工夫する必要がある。また、出張展示の会場開拓をすすめる。
- ・出張展示や企画展示開催して終了ではなく、印刷物を作成して展示後にも発信できるようにしたり、焼き直しての再展示など更に深めていく。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目 No.3 特別展「～川風のおくりもの～日野に誕生した桑と蚕の研究所物語」の開催事業

**事業の概要**

- ・新選組のふるさと歴史館を会場(10月2日～12月12日)として、特別展「～川風のおくりもの～日野に誕生した桑と蚕の研究所物語」を開催した。本展示は、旧日野桑園第一蚕室の保存修理を記念して、旧農林省蚕糸試験場日野桑園の歴史とその前史としての市域の養蚕業の発達について紹介した。
- ・また、保存修理で新しく生まれ変わった第一蚕室の姿を現地で見てもらいたく、5日間の特別公開を行った。そこでは、日野桑園の歴史概要や第一蚕室の特徴とともに、第一蚕室の保存修理前と後のパネルや修理工事で収集された部材を展示した。
- ・関連行事としては、子供向け体験学習会「糸取りをしてみよう」(協力:蚕糸の会ひの)、講演会「日野のモダン蚕室:建物を通して広がる世界」(講師:金出ミチル)、現地見学会「日野桑園 今・昔」(講師:太田陽子氏、柳元太郎氏)、第一蚕室の公開に合わせた建物解説(全4回、講師:太田陽子氏)を行った。

**事業の成果**

- ・来場者は、新選組のふるさと歴史館(72日間)で4,325人、第一蚕室特別公開で555人であった。
- ・関連行事も、「糸取りをしてみよう」(18人)、講演会「日野のモダン蚕室:建物を通して広がる世界」(37人)、現地見学会「日野桑園 今・昔」(17人)、第一蚕室の公開に合わせた建物解説(56人)の参加者(関連行事参加者合計:128人)があった。来場者及び行事参加者の総合計は5,008人であり、日野桑園第一蚕室への関心の高さがうかがわれた。
- ・日野桑園に関する資料の収集や、日野市域における養蚕関係資料への関心を高めることができた。
- ・日野桑園第一蚕室公開ガイドに向けた有志による勉強会も始まっている。

**協議会の意見**

・コンパクトにまとめられた展示解説書があり、具体的でよく分かり役に立った。保存修理で新しく生まれ変わった第一蚕室の特別公開・子供講座がセットになり、「養蚕のまち 日野」の理解が深まった。第一蚕室では常設の養蚕用具等養蚕関係の展示・パネル展示を行い、いつでも見学できるようにしたい。市民・学校の体験学習にも活用したい。

・第一蚕室は国の登録有形文化財である。日野市・市民の宝である。保存・活用に関して、ふるさと文化財課が積極的にリードし、研究を深化させ市内外にPRしてほしい。

・貴重な資料だが、内容は残念ながら自分には魅力的ではなかった。これは見る側の問題だろう。片や保存修理が終わった第一蚕室の見学会は、以前の様子を知っている身からすると、大変興味深かった。せっかくきれいに生まれ変わったものなので、日野の養蚕文化を伝える場として、今後の活用についても郷土資料館としても積極的に関与してほしい。

**課題と改善策**

- ・展示を機に、今後も日野桑園に関する資料や市域の養蚕業にかかわる資料収集を継続していく。
- ・仲田の森蚕糸公園は立地もよく、市民の憩いの場になっている。文化財ウィーク等での定期的な公開に向けて、人的・予算的な体制を整えていく必要がある。
- ・今は第一蚕室の本格的な活用に向け、関係各課・関係団体がそれぞれのやり方で試行的利用を行いながら、活用に向けたルール作りを模索している最中である。当課では、毎年、公開とそれに併せて行う展示・行事等を通して、第一蚕室が持つ歴史性(日本の近代化・地域の歴史や産業を物語る文化財であることを)を伝え続け、その原点を支えていくことが肝要であると考えている。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No.4 文化財緊急調査事業
<p><b>事業の概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代替わりや区画整理等の理由で処分される建造物または蔵等に収蔵されているものについて、専門家と連携して調査を行い、地域を語る資料の記録保存を行う。</li> </ul>	
<p><b>事業の成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日野桑園第一蚕室の建築関係資料調査 保存修理工事の際に取り出された建築部材の仮目録づくりのための作業を行った。</li> <li>・百草所在の条桑小屋の記録保存調査 百草地区に残る、緊急に改変される予定の旧条桑小屋の調査と記録撮影等を行った。</li> <li>・日野市内祭幟の現状調査に伴う記録保存撮影 市内祭幟調査の一環として、横町自治会保管の巨大祭幟の記録撮影を行った。</li> <li>・日野桑園第一蚕室の建築関係資料の整理選別作業に伴う調査 第一蚕室保存修理工事で取り出された建築部材の、整理選別作業を行った。</li> <li>・古写真調査とその記録撮影 高齢の方が所蔵されている古写真と当時の生活についての記録調査、および写真を資料化するための複写を行った。</li> </ul>	
<p><b>協議会の意見</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急調査した文化財は、記録保存だけでなく、HP・ミニ展示・「広報ひの」等で市民に知らせ公開してほしい。</li> <li>・日野市は、ひいき目でなく、実際よく頑張っていると思う。努力が感じられる。</li> </ul>	
<p><b>課題と改善策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「緊急案件」ではあるが、予算化できるものは前年度に予算化することが望ましい。</li> <li>・日野桑園第一蚕室の保存修理工事で出た建築部材の整理・選別作業を進めると同時に、保管場所の確保にも努める必要がある。</li> <li>・記録保存調査した内容がまとまった時点で、HP等や紀要などで公開する。</li> </ul>	

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No.5 古文書等歴史資料の調査・整理事業 およびマイクロフィルムデジタルデータ化事業
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日野市域の歴史を語る上で貴重な古文書等歴史資料を収集し、調査、整理、目録作成、撮影などを行ない、必要に応じて修復など保存のための手段を講じる。</li> <li>・古文書を解読して、展示などに利用するほか、印刷物として刊行し、広く市民の利用に供する。</li> <li>・古文書を利用した講座や見学会を開講し、古文書に対する市民の理解を深め、古文書を読み解く楽しみを広める。</li> <li>・郷土資料館が保管する、市史編さん事業等で古文書等歴史資料を撮影したマイクロフィルムのデジタルデータ化を進め、資料館の事業に活用する。</li> <li>・古文書等歴史資料整理編集委員会を年3回開催し、委員の意見を参考にして上記の事業を行う。</li> </ul>
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物の取り壊しなどで散逸の恐れのある資料を引き取り、寄贈・寄託につなげたほか、消防団や個人所蔵の資料を期限付きで借用し、調査、整理、目録作成、撮影などを実施した。</li> <li>・日野の古文書を読む会研究部会と協働で、程久保T家旧蔵文書や日野宿M家寄贈文書の整理を13回実施し、ボランティア延べ61人が参加した。また、古文書の解読と編集を34回行い、ボランティア延べ278人の参加があった。例年より少ないのは、新型コロナウイルス感染症の流行と緊急事態宣言によって、作業が休止する期間があったためである。</li> <li>・初心者向け古文書講座「江戸時代の百草村」を1～3月にかけて全6回開催した。テーマは、令和3年度から始まった百草・倉沢エコミュージアム事業に関連したものを選んだ。講師は日野の古文書を読む会の大窪俊彦氏と上野さだ子氏で、主に村明細帳と御林についてそれぞれ講義をした。開催にあたっては新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じ、定員を20人とし、延べ115人の参加があった。</li> <li>・虫損の被害が甚大だった「平山村田畑反別其外取調野帳 字七号～拾三号」の裏打ち修復を委託にて実施した。表紙と裏表紙を含め全145帖のうち、令和3年度は42帖分の修復を終えた。</li> <li>・16mmマイクロフィルム35巻分のデジタルデータ化を実施した。但し、令和3年度は検索用の目録の入力は行わず、画像のデジタルデータ化のみを優先させた。これにより、平成19年度から継続されたマイクロフィルムデジタルデータ化事業は、ひとまず終了した。</li> <li>・古文書等歴史資料整理編集委員会を6月、10月、3月の3回開催した。</li> </ul>
協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵にあるものをゴミではなくて、先祖からの歴史であり宝である。また、河川が氾濫して失ってしまう恐れもある。水が出た際には、大切な資料は上にあげる。日野にある宝は、外に出て行って欲しくない。そういったことを、日野市民の意識を持っていただくために「古文書レスキュー」という言葉は消していただきたい。そのようなことを伝えるために「広報ひの」お知らせ欄に「古文書は先祖の歴史 日野の宝。読めない古文書は秘密厳守で郷土資料館が解読します」の掲載はいいがかわりませんか。まずは市民に広める努力をして反応を見ては。</li> <li>・提唱されている「古文書レスキュー隊」のような、古文書の散逸を防ぎ保存・解読できる組織・体制が必要である。</li> <li>・「古文書レスキュー」の「レスキュー」の表現は、切迫感、切実感が伝わりよいと思う。ただ、「古文書」とすることに懸念がある。市民は「古文書」と聞くと、普通、文書と理解します。文書以外の、歴史的価値のあるものをレスキューするために、「古文書レスキュー」の前に何か適当な言葉を加えてはどうかと感じた。</li> <li>・マイクロフィルムのデジタルデータ化が終了したとのことだが、目録作成をすすめて、古文書等の検索システムを構築してほしい。</li> <li>・これも日野市は頑張っていると思う。講座に参加して感じたことだが、講師は熱心に詳細を説明してくださるが、参加者全てが専門家になるまでは希望しておらず、ややギャップがあった。重要な歴史資料が昨今失われつつあることは問題で、その現実も市民に伝えられる、歴史資料の案内講座をぜひやっていただきたい。</li> </ul>

## No.5 古文書等歴史資料の調査・整理事業およびマイクロフィルムデジタルデータ化事業

### 課題と改善策

- ・「古文書レスキュー」については、所蔵者本人から資料の保存について相談を受けるだけでなく、資料館の事業に関わる市民や地域住民などからも情報や後押しがあり、資料の寄贈や寄託につながっている。これまでも資料保存の大切さを訴え続けてきた成果であると考えているが、今後も引き続き、他部署や市民と連携をとりながら、散逸が心配される資料を保護できるように取り組みたい。しかし委員の先生方からは、まだまだ積極的なアピールが不足しているのご指摘をいただいております、広報や講演会などを通じて、市民一人一人に資料の保存について考えてもらう機会を作りたい。
- ・上記の事業を行うためには、資料の保管場所や古文書を取り扱う技術や経験を持った人材を必要とする。特に資料の撮影は、量も膨大なうえに専門的な技術を必要とし、時間も手間もかかるものであるが、保存と活用を両立させるために絶対に必要な作業であり、将来的なデジタルアーカイブの公開にも役立つものであるから、そのための予算が断続的に確保され、事業が停滞することのないようにしたい。
- ・マイクロフィルムのデジタルデータ化はひとまず終了したが、検索用の目録入力はまだなので、今後は自力で入力作業を行う。また、マイクロフィルム以外にもフィルム撮影済の写真を所蔵しているので、これらも今後、活用のためにデジタルデータ化していかなければならない。



日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 6 百草・倉沢エコミュージアム事業
<p><b>事業の概要</b></p> <p>平成 18 年に発足した「真慈悲寺調査推進プロジェクト」は 15 年間にわたり百草倉沢地区の歴史・文化の調査、研究、普及活動に大きな足跡を残してきた。それらの成果は、特別展や、京王百草園など館外で実施するパネル展にて紹介された。現地ガイドもボランティアが務め、真慈悲寺を含む百草地域の歴史を発信した。そのほか論文集の発行、真慈悲寺を伝えるDVD映像の作成、史跡周囲の環境整備、QR コードを百草八幡神社などに設置して史跡紹介するなど、熱意ある市民ボランティアとともに精力的に活動を行ってきた。しかし、令和 3 年度に、組織が改正になったことを受けて、この事業を「百草・倉沢エコミュージアム」事業として郷土資料館のみの事業ではなく、ふるさと文化財課の事業として発展的に取り組んでいくことになった。百草・倉沢地域全体を「屋根のないミュージアム」としてとらえ、史跡や自然といった地域の魅力を発信していく事業である。真慈悲寺調査を引き継ぎながら、百草・倉沢に関する多様なテーマに真慈悲寺調査センターを拠点に今後取り組んでいく。</p>	
<p><b>事業の成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土資料館、百草図書館、京王百草園（紅葉まつり、梅まつり）、イオンモール多摩の森にて、今までの成果をパネルで紹介した。また、QRコード「百草・倉沢周辺の歴史案内」チラシを 5,000 部印刷配布している。</li> <li>・リーフレット『百草周辺の歴史散策ガイド』増刷、リーフレット『七生丘陵散策路東コース（日野市百草の自然散策ガイド）』を発行した。</li> <li>・新型コロナウイルス対策として、「日野・百草スマホで集めるスタンプラリー」を開催し 918 人が参加した。</li> <li>・百草地区案内冊子（雑誌『散歩の達人』抜粋）を京王線や多摩モノレールの駅、公共施設などで配布した。</li> <li>・案内冊子の配布やスマホでのスタンプラリーの実施により、コロナ渦であっても地域に目をむける取り組みを可能とした。</li> <li>・出版社や電鉄会社と連携し広域にアピールできる手法での事業展開を図った。</li> <li>・個人が収集した万蔵院台遺跡表採の縄文土器・石器コレクションが寄贈されたことを受けて、寄贈された縄文土器を活用して「考古学を体験してみよう！」を開催し、縄文土器の洗浄・接合・拓本体験を行った。子どもから大人まで、幅広い世代延べ 278 人が参加した。</li> <li>・万蔵院台の遺跡見学会や安孫子昭二氏による講演会「縄文土器・土偶からわかる縄文の世界～日野市内の遺跡を中心として」を開催した。</li> <li>・「江戸時代の百草村」をテーマとした古文書講座を開催した。</li> <li>・「百草観音堂のスタジイ」の価値を検証し、日野市指定天然記念物として指定した。</li> </ul>	

## 協議会の意見

- ・「エコミュージアム」について、ほとんどの市民には伝わっていない。リーフレットや QR コードを活用した現地見学会・散策の会を実施する等、PR・啓発に努める。
- ・令和5年に実施される百草観音堂・聖観音立像の御開扉は12年に一度のことなので、さまざまな観点から調査・記録できるよう十分に準備して臨んでいただきたい。
- ・「考古学を体験してみよう」中級編に参加させていただいている。理解が深まった。
- ・考古学者の安孫子昭二先生の参加、地元を知る専門家に協力いただけることは意義深い。
- ・昨年度実施されたスタンプラリーは、これまでに無い取り組みであり、参加者も多く大成功だったと思う。これまで百草というと百草園ぐらいしか注目されていなかったが、地域にある他の様々な魅力にも関心を持ってもらうという意味で、大きな効果があったのではないかと。
- ・このような取り組みは予算もかかるので毎年は難しいと思うが、百草園の梅まつりや紅葉祭りなどと合わせて簡単なウォーキングマップを配布、掲示してはどうか。またその際に、七生丘陵調査団がこれまで作成したガイドブックや集めた情報を活用できるのではないかと。
- ・実物の土器を使っての考古学体験は中々経験できるものではないので、万蔵院台の土器コレクションを活かしてこのような講座を開催したのは、とても良い取り組みだと思う。
- ・七生丘陵調査事業とコラボすれば発展するのではないかと。
- ・百草・倉沢の他の地域もゾーニングして、それぞれの地域情報を総合的に発信をして、日野の魅力をより多くの人にわかりやすく伝える。
- ・七生丘陵散策路東コースのリーフレットをPRして欲しい。

## 課題と改善策

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、長年続けてきた京王百草園梅まつりでの解説ガイド、秋季の国指定重要文化財「阿弥陀如来坐像」公開および現地ガイドは実施できず、パネル展示や講演会の実施のみと縮小しての実施となった。
- ・QRコードでの現地案内や、スマホスタンプラリーといった、新たな形で地域の魅力を発信することができた。
- ・寄贈された万蔵院台遺跡の縄文コレクションは数が膨大であり、整理作業の市民協働を目指して令和4年度は考古学体験の中級編を開催し、興味のある市民がより深く関わられるようにする。
- ・令和5年には百草観音堂の12年に一度の聖観音立像の御開扉が控えている。調査・記録・公開のため、令和4年度はボランティアとともに百草観音堂の学習会を開始して掘り下げていく。
- ・今後とも百草・倉沢地域の歴史・文化を後世に伝えるというこのプロジェクトの役割を忠実に果たし、地域の発展に貢献していきたい。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 7 「勝五郎生まれ変わり物語」の調査と発信事業
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成18年度より、地元につながる生まれ変わり伝承の調査・研究・普及事業を、市民参加の調査団を結成し行なっている。令和3年度の活動は、総活動回数24回、参加者212人だった。</li> <li>・新型コロナウイルスの流行による影響で、5・8月の例会と5月の総会・公開講演会が中止となり、総会は書面開催となった。</li> <li>・第13回生まれ変わり記念日講演会は、往来物研究家の小泉吉永氏に「勝五郎の胎内記憶と江戸の胎教論」というタイトルの講演をおこなっていただき、調査団のみの参加で、WEB配信を行なった。4月に江戸楽舎の見学会が実施できたことが、記念日講演会の講師依頼につながった。昨年より配信しているYouTubeの累計視聴回数は3,592回となった。今年度の配信分だけでなく、昨年度の配信分の増加が大きかった。</li> <li>・3年ぶりに実施した子ども講座は、積極的な勧誘活動を行わなかったため参加者は少なかったが、新たなプログラムも加えて、充実した内容となった。次年度からの企画を考える上で、参考となるものだった。今年度も郷土資料館の学校見学プログラムの中に、勝五郎DVDの視聴を加えてもらったので(4校の小学3年生約360人)小学生への良い普及活動となり、子どもたちの反応も良好だった</li> </ul>
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2015年の勝五郎生誕200年記念イベントで講演を依頼した大門正幸氏(中部大学大学院教授、バージニア大学客員教授)が、「Psi Encyclopedia」に長文の英文で、勝五郎の生まれ変わりと調査団の活動を紹介してくれたことで、海外の普及活動の一層の進展が期待される。11月に刊行された『生まれ変わりを科学する』(桜の花出版)でも、勝五郎の生まれ変わりと調査団の活動に言及されている。</li> <li>・八王子市史の編さん事業が終わり、収集資料の閲覧が可能になったので、関係地域の宗門人別帳の調査を実施し、勝五郎とその家族に関する記述をいくつか発見することが出来た、今まで知られていなかった妹「あさ」の存在などの発見もあった。</li> <li>・2015年に刊行した報告書とブックレットが完売となった。ブックレットは、必要最小限の訂正をおこない、2刷500部を増刷した。報告書は、ページ数も増やした改訂版を、「勝五郎が生まれ変わりを語って200年」の記念事業として刊行することが決まり、準備の作業に取り掛かることが出来た。報告書改訂版の刊行を、令和3年度までの活動の集大成とする。コロナ禍で停滞しがちな活動であるが、「胎教」という今までになかった視点での講演をおこなうことが出来、活動の幅を広げることが出来た。</li> </ul>
協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍、動画配信で活動を継続できたことは大きな成果である。</li> <li>・子供講座の中高生の部を設け、後継者の発掘・育成を図る。</li> <li>・YouTubeを利用した講演会などの配信は、事業を記録して発信するうえでも有意義であろう。大門正幸氏の「Psi Encyclopedia」も、情報発信の拡大を示すもので期待できる。</li> <li>・このように展開していくことは素晴らしい。他の活動にも参考にできるだろうか。</li> </ul>
課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相変わらず、高齢化とコロナ禍での活動の縮小が課題であるが、報告書改訂版の刊行にむけて、いままでの活動をまとめていく中で、今後の進むべき方向を見つけたいと考えている。</li> <li>・他にあまり類のない調査活動を行っているため、成果は必ず後世に残されていくものと確信している。今後も息の長い活動を続けていきたいと思っている。</li> <li>・調査団の活動の成果を利用してきている場面に遭遇することが多く、普及活動が進んでいることを実感させられる。</li> </ul>

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 8 七生丘陵の自然と歴史調査事業
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・七生地域を中心に、自然と暮らしの結びつきや、地域の歴史などの分野にわたるテーマで調査を行い、展示や見学会などを開催して地域の魅力を伝えていく。</li> <li>・市民団体の七生丘陵調査団と協働して実施にあたる。</li> <li>・七生丘陵調査団には自然班と歴史班がある。市民の興味や得意分野をもとに資料館と連携してテーマを設定し、調査を行なうもので、生涯学習の機会提供ともなる事業である。</li> </ul>
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査団員の野外活動・例会など 72 回、延べ 193 人。</li> <li>・令和3年度のテーマである丘陵散策コースの池を中心に、動植物の記録や写真撮影を行った。</li> <li>・多摩平の森ふれあい館において、パネル展「七生丘陵散策コース 池」を開催した。パネルの編集も調査団が行った。</li> <li>・令和3年度は、外歩きの講座「程久保川周辺の自然と歴史」を実施した。調査団の市民がコース設定をし、案内役を務めた(一般参加9人)。新型コロナウイルス感染症予防のため、定員減で開催した。</li> <li>・調査団がデータとして作成した、「七生丘陵散策コースガイドブック」の一部を抜粋して、「七生丘陵散策路東コース 日野市百草の自然散策ガイド」を発行した。</li> <li>・市民目線で、自ら調査したことや発見したことの面白さや魅力を、実感を込めて伝えることができた。</li> </ul>
協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東コースのガイドブックの発行は大きな成果である。次は西コースの発行と活用を図る。</li> <li>・調査団に中高生の参加を働きかけ、組織の若返りと継続を図る。</li> <li>・市民団体が活躍しているが高齢化しているようだ。引き継ぎについて行政からの支援が必要である。</li> <li>・パネル展やパンフレットなどに、活動の紹介や参加者を募集している旨を必ず記載するようではどうか。コロナの影響で遠出がしにくい分、身近な地域への興味が高まっていると思うので、関心を持つ市民もいるのではないか。</li> </ul>
課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査団の高齢化もあり参加者数が減少傾向にある。役員も世代交代の時期となっている。</li> <li>・野外活動での安全対策や、屋外活動時間の短縮など無理のない計画が必要となる。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の流行により、積極的にメンバーを増やす対策は行っていない。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の流行のため、グループでの調査活動が縮小され、個人での活動も報告を記録して活動として位置付けた。</li> <li>・パネル展を多くの人に見ていただくため、再度別会場での展示の機会をつくる。</li> </ul>

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 9 たきびの詩人「巽聖歌」啓発事業
<p><b>事業の概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日野市で後半生を過ごした詩人・児童文学者の巽聖歌について、日野市に寄贈されている資料の調査・研究・保存を図るとともに、巽聖歌とその作品についての普及活動を行うことを目的としている。平成 10 年に、旭が丘にあった自宅の取り壊しに伴って資料の存在が確認されたことを機に、地元旭が丘で結成された「たきび会—巽聖歌を讃える会」と、たきび祭の実行団体である「旭が丘商工連合会」などと共に、調査・研究・普及事業を展開してきた。</li> <li>・平成 11 年「たきび詩碑」建立(たきび会)、平成 17 年「たきびの詩人・巽聖歌生誕百年記念展」、平成 18 年～たきび祭(たきび祭実行委員会—旭が丘商工連合会・たきび会・地元自治会など)、平成 22 年より豊田駅発車メロディーを童謡「たきび」とする、郷土資料館での企画展などの各種関連事業が行われてきたが、郷土資料館では毎年のたきび祭前夜祭において「巽聖歌朗読と歌のつどい」を開催し、巽聖歌の作品紹介、聖歌とゆかりの文学者を毎年一人取り上げ、巽聖歌と同時代の児童文学活動についての理解と普及に努めている。</li> <li>・巽聖歌の出身地岩手県紫波郡紫波町・新美南吉の出身地愛知県半田市・童謡「たきび」の舞台となった中野区上高田の鈴木家などとの交流を行ってきたが、これらの市民交流の成果として、平成 29 年 1 月紫波町との姉妹都市盟約が締結され、さらに交流が盛んになっている。</li> </ul>	
<p><b>事業の成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年は、童謡「たきび」が出来て 80 年となる記念の年であったが、残念ながら昨年引き続いて「たきび祭」は延期となった。代わりに「旭が丘タウンガイド」2021 に巽聖歌とたきび祭の歩みがまとめられ、郷土資料館も資料提供などの協力をおこなった。</li> <li>・8月20日に、東京パラリンピック2020の聖火採火式が旭が丘中央公園のたきび詩碑の前で行われた。</li> <li>・郷土資料館主催のパネル展(学校貸出用パネル使用)を、豊田のイオンモール多摩平の森 2 階で開催することが出来た。(11月2日～30日)大変好評で、500人を超える観覧者があった。</li> <li>郷土資料館でも、12月8日～4月まで、パネル展「巽聖歌と童謡たきび 80 年」を開催した。2月3日付朝日新聞朝刊—多摩・都内版—で紹介してもらったので、都内からも観覧者が何人か来館し、問い合わせも数件あった。</li> <li>・巽聖歌と童謡「たきび」ラジオ放送に関する新しい資料が集まりつつあり、今までよくわからなかった戦時下での聖歌の活動の一端を明らかにすることが出来ている。</li> <li>・12月18日に旭が丘中央公園にて紫波第三中学校産米の販売と日野第四中学校との WEB 交流会があり、詩碑前でパネル展を開催した。約 100 名の観覧者があった。たきび祭の関係者も多数来ていて、ミニたきび祭のような会になった。</li> </ul>	
<p><b>協議会の意見</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事と共催でき、大勢の方々が出張展示を見ることができ良かった。市民への PR・啓発を図るための一つのスタイルを提案できたと考える。</li> <li>・ふるさと文化財課という新組織となり、そのメリットを生かし、組織・体制の充実を図る。</li> <li>・令和5年度の巽聖歌没後 50 年は、節目の年になるのではないかと。担当者のことも含めて、今後の事業のあり方を十分に検討していただきたい。</li> <li>・様々な事業で「ふるさと文化財課」内でも継承がうまく進められることが大切だと思う。</li> </ul>	
<p><b>課題と改善策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な事業に追われて、資料の整理が進んでいないのが、最大の課題である。</li> <li>・令和 5 年度の、巽聖歌没後 50 年事業に向けて、紫波町や半田市の新美南吉記念館とのコラボ企画も提案されているので、一層の資料の整理と蒐集を進めていきたい。</li> <li>・郷土資料館のなかでも、担当者が 25 年間変わっていないので、次世代への継承を進めていく必要がある。令和 5 年度事業を共に進めていく中で、世代交代が支障なく行われていくようにしなければならない。</li> </ul>	

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 10 資料館講座・体験学習事業
<p><b>事業の概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>郷土の文化や歴史・自然などを、より深く学ぶために講座や体験をともなう学習会を開催する。</li> <li>No.9 までの事業として取り上げていない講座・事業を No.10 では評価対象とする。</li> </ul>	
<p><b>事業の成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>山代巴勉強会(映画『荷車の歌』上映) 11月20日 多摩平交流センター 21人 多摩平に居住していた作家山代巴について知ってもらうことが目的、想定以上の好評の申し込みがあった。</li> <li>化石でたどる大昔の日野 3月27日 西田尚央氏 多摩川 10人 化石と地質の観察会には子供から大人まで幅広い世代が参加した。</li> </ul> <p>※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症予防のために中止となった講座「映画荷車の歌」、「化石でたどる大昔の日野」は、いずれも定員を減少しての実施となった。</p>	
<p><b>協議会の意見</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>山代巴等埋もれた人物の掘り起こしは大切である。今後も継続し市民に知らせてほしい。</li> <li>化石は子供が大好きである。コロナ終息後は、観察会の定員を増やし企画展も開いてほしい。</li> <li>講座や体験学習の活動は、「勝五郎」のように、できれば市民団体が主導となり、市がサポートする形式が望ましいのではないかと。内容や活動に関心を持つ若い人はいると思うが、そういう若い人をどう発掘し、継承するかが重要である。</li> <li>学びたい時に手を差し伸べるのが、地域博物館の役割である。学びのきっかけづくりや、手がかりを示す場になればよい。専門的なことを学びたい人に、大学の聴講制度を紹介するなど、博物館以外の学びの場の情報提供をする場合もある。</li> <li>館側もコロナ禍という制約の中、最良の方法を考え館の運営している。好評を糧にし、一方足りない部分については、現状を踏まえ、できないことは理解してもらいながらも、工夫して最良の方法を考えることが必要。</li> <li>郷土資料館は、不便な場所であるが、どんど焼のように、この場所でしかできないことも実践してきた。現状の施設を生かしていくことが必要。</li> </ul>	
<p><b>課題と改善策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作家山代巴の活動は、ジェンダーフリーの問題を考える上で大変学ぶべきことがあるので、今後も勉強会を継続したい。</li> <li>化石の観察会「化石でたどる大昔の日野」は、定員と時間減で実施した。観察可能な河川敷の広さや水量が変化するため、状況に応じて対応する必要がある。</li> <li>「正月飾りをつくろう」は中止した。人と人が近づかないと指導しにくいものは、内容や指導方法を変更する必要がある。令和3年度は、製作方法の収録のみを行った。</li> <li>「どんど焼」は中止とした。大勢の参加者が見込まれるイベント的な事業については引き続きの検討課題となる。また、材料となるカヤの入手や、小屋づくりの人材確保の問題もある。令和3年度は、持続可能などどんど焼のあり方を検証するため、わらによる小型の小屋づくりと撮影を行った。</li> </ul>	

(1) 類型別事業数と参加人数

事業名	回数	参加人数
① イベント：どんど焼き、たきび祭（前夜祭ほか）中止	—	—
② 資料館展示見学（企画展・パネル展示・収蔵展示室見学）	—	1,905
③ 特別展観覧者数及び関連事業	—	5,008
④ 教育普及事業体験学習会	3	40
⑤ 教育普及事業講座	7	135
⑥ 調査事業（真慈悲寺）	—	5,804
⑦ 調査事業（勝五郎生まれ変わり物語）（YouTube1764 含）	24	1,976
⑧ 調査事業（七生丘陵）	63	193
⑨ 調査事業（日野の古文書を読む会との協働）	52	387
⑩ 出張事業	16	1,492
⑪ 民具修理ボランティア等	29	85
合計	194 回	17,025

(2) 展示事業

ア 施設見学

(ア) 月別来館者数（団体を除いた一般来館者数）

月	入館者数
4月	74
5月	0
6月	92
7月	88
8月	78
9月	179
10月	193
11月	234
12月	145
1月	99
2月	134
3月	115
合計	1,431

※4.27～5.31 は新型コロナウイルス感染症拡大防止（緊急事態宣言）のため臨時休館

(イ) 学校等団体来館者数

月日	学校名等	対象	内容	人数
10.7	日野第二中学校	2年	職場訪問	5
10.14	仲田小学校	3年	社会科見学	71
10.19	平山小学校	3年	社会科見学	111
10.22	滝合小学校	3年	社会科見学	77
11.5	日野第一小学校	3年	社会科見学	74
11.18	日野第四小学校	3年	社会科見学	117
1.6	放課後等デイサービス	学童	見学	19
合計	7件			474

イ 企画展示別来館者数（一般見学者と期間中の団体見学者の合計）

企画展名	展示期間	入館者数
企画展「訪ねてみよう日野の自然」	4.3～9.5	344
企画展「縄文の顔・日野の顔」	9.11～3.27	1,554
パネル展「程久保の地域の歴史と自然」	6.1～7.14	—
パネル展「明日に伝える戦争体験」	7.15～9.10	—
パネル展「中世寺院の瓦は何色だったか～真慈悲寺瓦復元実験から～」	9.12～12.7	—
パネル展 異聖歌と童謡「たきび」誕生 80 年 ※12.18～28 は壁面工事のため休止	12.8～4.21	—
合 計		1,898

※パネル展は同時開催のため来館者数の記入なし

ウ 特別展 「～川風のおくりもの～日野に誕生した桑と蚕の研究所物語」

旧日野桑園第一蚕室の保存修理を記念して、旧農林省蚕糸試験場日野桑園の歴史と、桑園前史として地域の養蚕業の発達について紹介した。

(ア) 入館者数等

期 間	会 場	入館者数等
10.2～12.12	新選組のふるさと歴史館	4,325
10.9 10.16 11.6 11.23 12.11	旧日野桑園第一蚕室	555
合 計		4,880

(イ) 特別展関連行事

月 日	名 称	人数
10.16	体験学習会「糸取りをしてみよう」 協力：蚕糸の会ひの	18
11.6	講演会「日野のモダン蚕室：建物を通して広がる世界」 講師：金出ミチル氏	37
11.23	現地見学会「日野桑園 今・昔」 講師：太田陽子氏・柳元太郎氏	17
10.9 10.16 11.6 12.11	第一蚕室の建物解説（4回） 講師：太田陽子氏	56
合 計	4 件	128

(3) 教育普及事業（10.5.4）

ア 講座・体験学習会

月 日	内 容	講 師	会 場	人数
11.20	山代巴勉強会（映画『荷車の歌』上映）		多摩平交流センター	21
3.29	程久保川周辺の自然と歴史	七生丘陵調査団	多摩動物公園駅から程久保地域	9
3.27	化石でたどる大昔の日野	西田尚央氏	多摩川	10
合 計	3件			40

イ 連続講座



月日	内容	講師	会場	人数
1.23	江戸時代の百草村 第1回(村明細帳)	大窪俊彦氏	郷土資料館	19
1.30	江戸時代の百草村 第2回(村明細帳)	大窪俊彦氏	郷土資料館	20
2.6	江戸時代の百草村 第3回(村明細帳)	大窪俊彦氏	郷土資料館	19
2.20	江戸時代の百草村 第4回(御林)	上野さだ子氏	郷土資料館	19
2.27	江戸時代の百草村 第5回(御林)	上野さだ子氏	郷土資料館	19
3.6	江戸時代の百草村 第6回(御林)	上野さだ子氏	郷土資料館	19
合計	6回			115

ウ 出張事業（展示及び講師派遣）

（ア） 学校等へ出張授業

月日	学校名	対象	内容	人数
6.3	夢が丘小学校	3年	総合的な学習の時間 程久保川ほか	52
11.4	日野第一中学校	1年	総合的な学習の時間 郷土学習	32
11.17	夢が丘小学校	5年	総合的な学習の時間 脱穀体験	67
12.15	わかば教室	小・中	陸稲の脱穀・粳摺り	19
1.20	七生緑小学校	3年	社会 暮らしのうつりかわり	59
1.26	日野第八小学校	3年	社会 暮らしのうつりかわり	123
1.27	豊田小学校	3年	社会 暮らしのうつりかわり	125
1.28	南平小学校	3年	社会 暮らしのうつりかわり	104
2.25	日野第三小学校	3年	社会 暮らしのうつりかわり	64
合計			9件	645

（イ） その他

月日	内容	会場	人数
4.23、5.21	講座「新緑の季節 七生散策」（中央公民館主催事業）講師：当課学芸員	高幡・程久保地域	20
8.17～27	写真展「多摩平写真日記」	イオンモール多摩平の森2階	-
11.2～30	異聖歌パネル展	イオンモール多摩平の森2階	500
12.18	異聖歌パネル展示（紫波第三中学校 米販売会）	旭が丘中央公園	100
11.6～11.19	秋の展示	介護老人保健施設カトレア	-
3.12～3.15	日野市春の平和展「日野びとの戦争体験と平和へのメッセージ」	多摩平の森 ふれあい館	135
3.24～4.21	パネル展「七生丘陵散策コース 池」	多摩平の森 ふれあい館	92
合計	7件		847

エ レファレンス事業

項目	件数
電話・Eメール・手紙などで寄せられた質問に対する調査回答	合計 102件

(4) 所蔵資料活用事業

ア 資料のデータ化事業

マイクロフィルムのデジタルデータ化(完了) 16mmマイクロフィルム 35巻

イ 資料の貸出事業 概要

貸出先	資料	目的
桜美林大学 1件	千歯扱き	博物館実習(資料収集・整理実習)
小学校、公民館、カワセミハウスほか 7件	座繰、地層標本、木の 実の標本、唐箕・足踏 み脱穀機、千歯扱き、 こき箸、炭火アイロン、 火のし、こてほか	理科・社会科、総合学習、 脱穀などの体験学習、展示
8件		

ウ 資料の撮影・閲覧申請 概要

区分	資料名・目的など
【資料写真の掲載】	拓務訓練所、武蔵名勝図会(番組、書籍)、豊田地区の古い写真、多摩平風景写真、百草八幡神社所蔵銅造阿弥陀如来坐像写真、日野市有形文化財指定瓦写真、程久保の歴史と特徴ジオラマ、一里塚・渡船場・水車・勝五郎生まれ変わり(新聞)
【資料の閲覧・調査】	日野桑園出土の板碑、鹿島団地から明星団地を望む(写真)、日野町役場事務報告、水車調査、七生村役場文書、武蔵名勝図会、巽聖歌資料、市内古文書(古文書調査)
件数	24

(5) 資料収集保存・調査事業

ア 資料収集保存事業

項目	内容	件数等
資料寄贈	北原共同稻荷講資料一式、講中膳碗、鎌、背負子、糸杵、漁具、水輪型板、土器片、地図、掛軸、古文書、写真ネガバタ 焼き帳ほか	12件
資料購入・製作	『蚕糸試験場年報』(一式)、『落のとう』『囚われの女たち』(山代巴著)、『軍事教育』第四号、岸浪百草居関係書籍 ほか	38冊

	か	
収集資料の整備ほか	民具整理補助 (29回)	85人
資料修復	「平山村田畑反別其外取調野帳 字七号～拾三号」	42帖

イ 調査事業

(ア) 真慈悲寺調査事業

区分	事業名	内容	回数	人数
普及	展示	9.12～12.7 パネル展「中世寺院の瓦は何色だったか～真慈悲寺瓦復元実験から～」会場：郷土資料館廊下	-	-
	展示	12.8～4.9 百草の歴史を楽しむパネル展「明治期の百草園 百草の生糸商 青木角蔵の足跡」part2 「京王百草園内芭蕉碑裏面に刻まれた 13 の句紹介」 会場：百草図書館	-	-
	展示	11.23～12.5 百草の歴史を楽しむパネル展「明治期の百草園 百草の生糸商 青木角蔵の足跡」 会場：京王百草園内松連庵 DVD上映	-	2,970
	展示	2.5～2.13 百草の歴史を楽しむパネル展「江戸時代の百草園～慈岳山松連寺と寿昌院」 DVD上映 会場：京王百草園内松連庵	-	2,100
	展示	3.2～3.6 パネル展「中世の大寺院真慈悲寺」 会場：イオンモール多摩平の森・イオンホール（小島善太郎絵画展にあわせて）	-	718
環境整備	その他	真慈悲寺調査研究センター整備・看板清掃	3	16
刊行物の発行等	印刷	QRコード「百草・倉沢周辺の歴史案内」チラシの増刷 5,000部		
	印刷	リーフレット増刷「百草周辺の歴史散策ガイド」3,500部		
合計			3回	5,804

(イ) 勝五郎生まれ変わり物語調査事業

項目	内容	人数
例会	毎月第二水曜日午後 (10回) 令和3年5月・8月は中止	102
総会	書面開催	49
公開講演会	コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	
展示・講座	コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	

記念行事	第13回藤蔵・勝五郎生まれ変わり記念日講演会(463人) (コロナウイルス感染症拡大防止のため動画配信)(10.10~3.31) 講演会 「勝五郎の胎内記憶と江戸の胎教論」 (講師 小泉吉永氏—往来物研究家・立正大学講師) 9.4 収録(16人)	479
調査活動	勝五郎の妹「うた」の関係資料調査(6回)他	10
その他の活動	江戸楽舎見学会(4.3)(14人) 調査団ニュース発行(3回) 訪問者対応(4月・令和4年1・2・3月)4回 春休み子ども講座(3.26)(17人) 12回記念日WEB配信(4.1~3.31)1,301人	1,332
刊行物の発行	日野市郷土資料館ブックレット1『ほどくぼ小僧勝五郎生まれ変わり物語』(増刷) 400部	
合計(人数)		1,972

(ウ) 七生丘陵調査事業

内容	回数など	人数
定例会(8回)・総会(1回)	9	46
室内資料整理作業や打合せ	6	27
七生丘陵の屋外観察記録	57	120
パネル展「七生丘陵散策コース 池」のための準備を年間通して実施 期間:3.24~4.21 会場:多摩平の森ふれあい館	-	-
合計	72回	193

(エ) 古文書調査事業

事業名	内容	回数など	人数
日野の古文書 を読む会との 協働	古文書整理(南平・程久保・日野宿)	15	61
	古文書の解読(古谷平右衛門日記ほか)	34	278
	例会・総会	3	48
合計		52回	387

その他の調査事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の歴史を記録した資料の調査・整理・目録作成および写真撮影</li> <li>日野宿・新井・万願寺・落川・豊田地域の古文書等歴史資料の整理(写真撮影・調査解読等)。市内祭幟調査。</li> <li>日野の昭和史を綴る会との協働で、日野本郷の地名調査を実施。</li> </ul>
----------	---

(オ) 異聖歌関連事業

月日	内容
11.2~30	異聖歌パネル展（イオンモール多摩平の森）
12.8~4.21	異聖歌パネル展（郷土資料館）
12.18	旭が丘中央公園パネル展示（紫波第三中学校 米販売会）
(刊行物)	異聖歌リーフレット（増刷）1,000部
	たきび祭前夜祭 延期
	たきび祭 延期
(年間)	異聖歌資料の整理・異聖歌資料調査等

(カ) その他

項目	内容
文化財緊急調査	日野桑園第一蚕室の建築関係資料調査、百草所在の条桑小屋の記録保存撮影、日野市内祭幟の現状調査に伴う記録保存撮影、日野桑園第一蚕室の建築関係資料の整理選別作業に伴う調査、古写真調査とその記録撮影
民俗調査 サイノカミ行事及び門松・しめ縄作り調査（サイノカミ・どんど焼き勉強会）	『コロナ禍におけるサイノカミ・どんど焼き行事調査報告書』（内部資料）のための日野市域の行事調査等

(6) 郷土資料館協議会

開催日	会場	議事案件
7.9	郷土資料館	1 報告事項 ふるさと文化財課について 郷土資料館協議会第8期委員の変更について 令和3年度事業の進捗状況と今後の予定 2 協議事項 運営の状況に関する評価（令和2年度事業） 3 見学 企画展「訪ねてみよう日野の自然」見学
12.10	日野市役所	1 報告事項 令和3年度郷土資料館事業について ふるさと文化財課全体の事業について 2 見学 特別展「川風のおくりもの～日野に誕生した桑と蚕の研究所物語」
2.24	郷土資料館	1 報告事項 郷土資料館協議会第8期任期終了および第9期委員について 令和3年度事業について報告 令和4年度 ふるさと文化財課・郷土資料館事業について 2 見学 企画展「縄文の顔・日野の顔～地中に遺された縄文の造形を見る～」

(7) 古文書等歴史資料整理編集委員会

開催日	会場	議事案件
6.11	郷土資料館	<p>議題1 ふるさと文化財課について－新組織の説明と令和3年度の事業計画</p> <p>議題2 令和3年度の資料調査事業について            (1) 令和2年度からの継続調査(7件)            (2) 令和3年度から新たに始める資料調査(4件)</p> <p>議題3 マイクロフィルムのデータ化事業－令和2年度の報告と3年度の計画について</p> <p>議題4 広報「みんなのふるさとこぼれ話」について</p> <p>議題5 その他</p>
10.22	日野市役所 502 会議室	<p>議題1 令和3年度の資料調査事業について(4件)</p> <p>議題2 マイクロフィルムのデータ化事業の計画について</p> <p>議題3 広報「みんなのふるさとこぼれ話」について</p> <p>議題4 その他</p> <p>*会議終了後、特別展の展示見学</p>
3.11	郷土資料館	<p>議題1 令和3年度の資料調査事業について            (1) 令和3年11月以降の寄贈・借用資料の調査(7件)            (2) 継続資料調査(4件)</p> <p>議題2 マイクロフィルムのデータ化事業について</p> <p>議題3 広報「みんなのふるさとこぼれ話」について</p> <p>議題4 その他</p>

<参考資料>

## II 日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱

平成21年3月31日制定

(目的)

第1条 この要綱は、博物館法（昭和26年法律第285号）第9条の規定する、日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 日野市郷土資料館（以下「資料館」という。）は、毎年1回、資料館の運営状況について評価を行う。

(評価の方法)

第3条 資料館は、資料館協議会の意見を聞きながら、評価を行うものとする。

(教育委員会への報告書の提出)

第4条 資料館は、評価に関する報告書を毎年度作成し、教育委員会に提出する。

(評価結果の公表)

第5条 資料館は、評価の結果を市民に公表する。

(評価結果の活用)

第6条 資料館は、評価の結果に基づき、その運営の改善に努めるものとする。

(庶務)

第7条 評価に関する庶務は、資料館資料館係において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、資料館長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する

<参考資料>

Ⅲ 日野市郷土資料館協議会委員名簿（第9期）

番号	氏名	専門分野	期
1	小杉博司 (委員長)	社会教育の関係者 (郷土教育研究)	5
2	平 自由 (副委員長)	社会教育の関係者 (考古学・博物館学)	4
3	畠山 豊	社会教育の関係者 (民俗学・博物館学)	4
4	保坂一房	学識経験者 (多摩の地域史研究)	4
5	佐藤福子	学識経験者 (歴史・古文書研究)	3
6	片山 敦	学識経験者 (生物・環境教育)	3
7	長崎将幸 任期:令和4年3月4日~令和4年3月31日	学校教育の関係者 (平山小学校校長)	2
	斉藤境栄 任期:令和4年4月1日~令和6年3月3日	学校教育の関係者 (東光寺小学校校長)	1
8	高橋清吾 任期:令和4年3月4日~令和4年3月31日	学校教育の関係者 (日野第一中学校校長)	3
	川島清美 任期:令和4年4月1日~令和6年3月3日	学校教育の関係者 (日野第三中学校校長)	1
9	河合今日子	公募市民	1
10	藤森寛行	公募市民	1

任期 自 令和4年3月4日  
至 令和6年3月3日





令和4年度日野市郷土資料館の  
運営の状況に関する評価書  
(令和3年度事業)

令和4年9月

日野市ふるさと文化財課  
(郷土資料館)

〒191-0042

東京都日野市程久保550番地

電話 042-592-0981

FAX 042-594-1915